

本年も間もなく^{おおみそか}大晦日を迎えます。

この一年間は、記憶に^{とど}留めなければならない大事な出来事がたくさんありました。皆様もこの一年、さまざまな出来事があったのではないのでしょうか？

年の終わりにお会いする方への挨拶に、「どうぞ良いお年をお迎えください」と言うことがあります。これには、人によっては「今年は大変な一年になりましたね」といった意味が含まれていることもあるでしょう。^{つら}辛いことや悲しい出来事があった方への、思いやりの心が表れた言葉でもあるのかもしれませんが。

そうした年末の^{ひき}悲喜こもごもの思いのうち、大晦日の夜に耳にするのが、「除夜の^{かね}鐘」です。「ああ、鐘が鳴っている・・・」、「今年も、もう暮れてゆくのだろうか・・・」、「やっと今年が終わるのか・・・」。人それぞれに一年の^{つきひ}月日を振り返ります。

除夜の鐘は、百八回^つ撞かれます。中国の^{そう}宋の時代に始まったとされ、一説に百八^{ほんのう}は煩惱の数といわれますが、自らのこの一年間を^{かえり}省みて^き聴くならば、心の底にじ^しっと^{ねいろ}沁み入る音色となることでしょう。

そして新年を迎えたら、願わくは輝かしく、安らかでありたいと思い、新しい年に気持ちは移り、前向きな心持ちで一日一日を歩み始めるでありましょう。

その前に、一年間を振り返るきっかけを私たちに知らせてくれる鐘の響きは、“むさぼり”、“いかり”、“おろかさ”といった逃れられない^{わすら}心の^{わすら}煩^{わすら}いが私たち自身の心の中にあることをはっきりと明らかにしてくれるようです。その全てを仏様の前に差し出して、正しく歩むべき^{おさとり}おさとりの道をあらためてお示くださっているようにも感じられます。

お寺によっては、鐘を^つ撞くことが出来たり、寒い夜ということで甘酒などのふるまいがあったりとにぎやかに年を越せるところもあります。また、お灯^{とうみょう}明をたくさん^{とも}灯すお寺や、^{いの}祈りの法要行事を行うお寺もあります。

どうかこの年末に、近くのお寺をお訪ねになり、心に^し沁み入る鐘の響きによって心の中の掃除を丁寧にお済ませ頂き、清々しく実りある良いお年をお迎えくださいますよう、祈念申し上げます。